

校外実習における学生の取り組みの実態と 事前オリエンテーション・事後報告会について

亀崎 幸子

Sachiko KAMEZAKI : The Status of Students in Off-Campus
Training and Prior Orientation/Ex Post Facto Report

栄養士資格取得のためには、校外実習の1単位以上の履修が義務づけられている。校外実習に出るにあたって事前のオリエンテーションを7月初旬に給食管理実習Ⅱの授業で行っている。また学生は1施設しか実習できないため、報告会を通して他施設の実習内容を知り、就職先選定の1資料とさせている。今後の指導の一助とするために、学生のオリエンテーションを受けてから実習が始まるまでの事前の取り組みの実態と事前オリエンテーションや事後報告会についての有効性について調査検討した。

キーワード：校外実習 学生の取り組み 事前オリエンテーション 事後報告会

目 的

平成12年に栄養士法の一部を改正する法律が公布され、管理栄養士の業務内容の明確化、登録制から免許制、国家試験受験資格の見直しがなされ、平成13年にはカリキュラム改正が行われた。平成14年には文部科学省と厚生労働省から「管理栄養士養成施設における臨地実習および栄養士養成施設における校外実習について」の実施要領¹⁾²⁾が出され、実習の方法の中に校外実習にあたってはその教育効果があるよう、学内において事前および事後教育を行う体制を整えることとある。本学では実習前オリエンテーションを7月初旬に1日を使用して行っている。その内容は各実習先特定給食施設の特徴、実習に出るにあたっての言葉遣い、礼儀・作法、服装、出勤時間等の注意事項、事前学習の必要性等である。また、各自1施設しか実習できないため、互いの体験を共有させ、他施設の内容をより理解させ、

就職先選定の1資料とするため、実習報告会を9月下旬の1日を使って行っている。今回、教育効果の高い充実した校外実習とするために、事前オリエンテーションと事後の報告会を受講した対象学生全員にアンケート調査を実施し、校外実習に対する学生の取り組みを評価検討し、今後の事前事後教育の効果的な方法の一助にすることを目的とした。

方 法

栄養士校外実習を受講した本学食物栄養専攻2年生55名を対象に学内での報告会終了後にアンケート調査を実施した。調査項目は、実習先の選定理由、実習期間、実習前の不安の有無と不安内容とその解消方法、事前オリエンテーションについて、実習前の取り組みとその内容、実習先の把握、事後報告会について、実習前の栄養士のイメージと実習後の栄養士就職希望などである。

結 果

アンケート調査の単純集計の結果を表1に示した。実習先の選択理由（複数回答）として、「将来の進路先を考えて」が最も多く、52.7%であった。

次いで「老人食についてもっと理解したかったから」、「施設の現状を理解したいから」の順で多かった。「家から近いから」を選択理由の一つにあげていた者は3.6%であった。実習期間はカリキュラム上では1単位以上となっており、本学では校外実習は2単位で実施してきている。実習期間については

表1 アンケート項目 (%)

アンケート項目		n	%
実習先希望理由（複数回答）	将来の進路を考えて	29	52.7
	家から近い	2	3.6
	施設の現状を理解したい	10	18.2
	どこでも良かった	4	7.3
	子供と接したかった	5	9.1
	老人食についてもっと知りたかった	11	20.0
	その他	7	12.7
実習期間	短かった	21	38.2
	ちょうど良かった	27	49.1
	長かった	7	12.7
実習に出るに当たっての不安感	全く感じなかった	0	0.0
	ほとんど感じなかった	3	5.5
	やや感じた	23	41.8
	非常に感じた	29	52.7
不安内容（複数回答）	実習先の職員との交流	24	43.6
	入所者との交流	16	29.1
	体力面	4	7.3
	調理技術面	36	65.5
	栄養指導面	24	43.6
	その他	3	5.5
実習に出る前の教科書の見直し	十分した	10	18.2
	半分ぐらいはした	42	76.4
	全くしなかった	3	5.5
出る前に見直した教科（複数回答）	調理学	25	45.5
	給食管理	44	80.0
	栄養指導論	13	23.6
	栄養教育実習指導	3	5.5
	食品保健	5	9.1
	栄養学総論	3	5.5
	ライフステージ栄養学	19	34.5
	臨床栄養学概論・各論	21	38.2
	生化学	0	0.0
	その他	2	3.6
	実習先の把握	十分した	10
半分ぐらいはした		43	78.2
全くしなかった		2	3.6

栄養士の業務内容の把握	十分した	4	7.3
	半分ぐらいはした	43	78.2
	全くしなかった	8	14.5
もっと勉強しておけば良かった科目（複数回答）	調理学	21	38.2
	給食管理	14	25.5
	栄養指導論	21	38.2
	栄養教育実習指導	6	10.9
	食品保健	7	12.7
	栄養学総論	3	5.5
	ライフステージ栄養学	6	10.9
	臨床栄養学概論・各論	17	30.9
	生化学	1	1.8
	その他	6	10.9
実習前の栄養士のイメージ（複数回答）	やりがいのある仕事である	11	20.0
	栄養士は重労働の仕事である	15	27.3
	栄養士は楽しい仕事である	3	5.5
	栄養士はつらい仕事である	8	14.5
	栄養士は健康を考える大切な仕事をしている	36	65.5
	栄養士として必要な知識や技術が豊富である	25	45.5
実習後の栄養士への考え	栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった	10	18.2
	栄養士として就職したい気持は変わらない	19	34.5
	栄養士として将来就職しなくなかった	6	10.9
	栄養士として自分は向いていないと感じた	20	36.4
事前のオリエンテーション	非常に役に立った	18	32.7
	やや役に立った	20	36.4
	普通	17	30.9
	やや役に立たなかった	0	0.0
	全く役に立たなかった	0	0.0
報告会の有効性	非常に役に立った	10	18.2
	やや役に立った	18	32.7
	普通	23	41.8
	やや役に立たなかった	4	7.3
	全く役に立たなかった	0	0.0

「ちょうど良かった」が49.1%であり、「短かった」は38.2%であった。「長かった」は12.7%であった。実習に対しての不安は、52.7%が「非常に不安」と答え、「やや感じた」は41.8%であった。「ほとんど感じなかった」は5.5%であり、「全く感じなかった」は見られなかった。その不安内容は、65.5%が「調理技術面」であった。次いで「実習先の職員との交流」,「栄養指導面」,「入所者との交流」の順であった。その不安の解消方法として（自由回答）は「家で何回も練習した」,「事前の勉強をしっかりとした」,「積極的に行動するようにした」,「わからないこと

は尋ねた」,「進んであいさつをするようにしてコミュニケーションをとるようにした」の記入が多かった。実習に出る前の事前の教科の見直しについては、76.4%が「半分ぐらいした」と答えた。「十分した」は18.2%であった。「全くしなかった」は5.5%とわずかであった。実習先の把握については「半分ぐらいした」が78.2%と多く、「十分した」は18.2%であった。「全くしなかった」は3.6%とわずかであった。栄養士の業務内容の把握については「半分ぐらいした」が78.2%と多く、「十分した」は7.3%とわずかであった。「全くしなかった」は14.5%で

あった。もっと勉強しておけばよかった科目（複数回答）は、「調理学」38.2%、「栄養指導論」38.2%、「臨床栄養学」30.9%の順に多く、次いで「給食管理」、「食品衛生学」「栄養教育」「栄養学」「生化学」の順であった。実習前の栄養士のイメージ像（複数回答）は、「健康を考える大切な仕事をしている」は65.5%と最も多く、次いで「栄養士として必要な知識や技術が豊富である」が45.5%であり、「やりがいのある仕事である」は20.0%であった。一方、「重労働の仕事である」は27.3%、「辛い仕事である」は14.5%であった。実習後の栄養士への就職希望については「栄養士として就職したい気持ちは変わらない」は34.5%、「栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった」18.2%あったが、「栄養士として自分は向いていないと感じた」は36.4%、「将来栄養士として就職したくなくなった」は10.9%あった。実習前のオリエンテーションは36.4%が「やや役に立った」、32.7%が「非常に役に立った」であり、約70%が事前のオリエンテーションは有効であったと答えた。報告会については「普通」が41.8%と多く、次いで「やや役に立った」、「非常に役に立った」、「やや役に立たなかった」の順であった。「非常に役に立った」と「やや役に立った」を「役に立った」とすると50.9%と半数が有効であったと答えた。

役に立った」、「やや役に立たなかった」の順であった。「非常に役に立った」と「やや役に立った」を「役に立った」とすると50.9%と半数が有効であったと答えた。

実習前の教科の見直しと実習期間との関係を表2に示した。全体で見ると、実習前の教科の見直しは「半分ぐらいした」が76.4%と最も多く、その中で実習期間を「ちょうど良かった」は34.5%と多く、次いで「短かった」は29.1%であった。「長かった」は12.7%であった。「十分した」とした者は18.2%いたが、その中では実習期間が「ちょうど良かった」は10.9%、「短かった」は7.3%であり、「長かった」と答えた者はいなかった。

実習前の教科の見直しと実習後の栄養士への就職希望との関係を表3に示した。全体で見ると、実習前の教科の見直しを「半分ぐらいした」が76.4%と多く、その中で「栄養士として将来就職したくなくなった」と答えた者が32.7%と多かった。しかし、27.3%は「栄養士として就職したい気持ちは変わらない」と答え、9.1%は「栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった」と答えた。

表2 実習前の教科の見直しと実習期間との関係 n (%)

		実 習 期 間			計
		短かった	ちょうど良かった	長かった	
実習前の教科の見直し	十分した	4 (7.3)	6 (10.9)	0 (0)	10 (18.2)
	半分ぐらいした	16 (29.1)	19 (34.5)	7 (12.7)	42 (76.4)
	全くしなかった	1 (1.8)	2 (3.6)	0 (0)	3 (5.5)
	計	21 (38.2)	27 (49.1)	7 (12.7)	55 (100)

表3 実習前の教科の見直しと実習後の栄養士への就職希望との関係 n (%)

		実習後の栄養士への就職希望				計
		栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった	栄養士として就職したい気持ちは変わらない	栄養士として自分は向いていないと感じた	栄養士として将来就職したくなくなった	
実習前の教科の見直し	十分した	5 (9.1)	2 (3.6)	1 (1.8)	2 (3.6)	10 (18.2)
	半分ぐらいした	5 (9.1)	15 (27.3)	4 (7.3)	18 (32.7)	42 (76.4)
	全くしなかった	0 (0)	2 (3.6)	1 (1.8)	0 (0)	3 (5.5)
	計	10 (18.2)	19 (34.5)	6 (10.9)	20 (36.4)	55 (100)

実習先の把握と実習後の栄養士への就職希望との関係を表4に示した。全体でみると、実習先の把握を「半分ぐらいした」とした者が78.2%と多く、その中で32.7%は「栄養士として将来就職したくなくなった」と答えた。しかし、27.3%は「栄養士として就職したい気持ちは変わらない」と答え、10.9%は「栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった」と答えた。

実習先の把握と栄養士の業務内容の把握との関係を表5に示した。全体でみると、実習先の把握を「半分ぐらいした」と答えた者が78.2%と多く、その中で63.6%と多くの者が「栄養士の業務内容の把握を「半分ぐらいした」と答えた。実習先の把握を「半分ぐらいした」としながら栄養士の業務内容を

「全くしなかった」で実習に臨んでいた者が10.9%いた。実習先の把握を「十分した」として、栄養士の業務内容を「半分した」は14.5%あり、「全くしなかった」はいなかった。しかし、実習先の把握も栄養士の業務内容の把握も「全くしなかった」はわずかではあるが3.6%存在した。

実習に出るにあたっての不安と実習前の教科の見直しとの関係を表6に示した。全体でみると、実習に出るにあたって、不安を「非常に感じた」と答えた者が52.7%と多く、その中で実習前の教科の見直しを「半分ぐらいした」と答えた者は41.8%と多く、「十分した」は17.2%であった。「やや感じた」として教科の見直しを「半分ぐらいした」は32.7%存在した。しかし、「非常に不安を感じた」、「やや感

表4 実習先の把握と実習後の栄養士への就職希望との関係 n (%)

		実習後の栄養士への就職希望				計
		栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった	栄養士として就職したい気持ちは変わらない	栄養士として自分に向いていないと感じた	栄養士として将来就職したくなくなった	
実習先の把握	十分した	4 (7.3)	3 (5.5)	2 (3.6)	1 (1.8)	10 (18.2)
	半分ぐらいした	6 (10.9)	15 (27.3)	4 (7.3)	18 (32.7)	43 (78.2)
	全くしなかった	0 (0)	1 (1.8)	0 (0)	1 (1.8)	2 (3.6)
計		10 (18.2)	19 (34.5)	6 (10.9)	20 (36.4)	55 (100)

表5 実習先の把握と栄養士の業務内容の把握との関係 n (%)

		栄養士の業務内容の把握			計
		十分した	半分ぐらいはした	全くしなかった	
実習先の把握	十分した	2 (3.6)	8 (14.5)	0 (0)	10 (18.2)
	半分ぐらいした	2 (3.6)	35 (63.6)	6 (10.9)	43 (78.2)
	全くしなかった	0 (0)	0 (0)	2 (3.6)	2 (3.6)
計		4 (7.3)	43 (78.2)	8 (14.5)	55 (100)

表6 実習に出るにあたっての不安と実習前の教科の見直しとの関係 n (%)

		実習前の教科の見直し			計
		十分した	半分ぐらいはした	全くしなかった	
実習に出るにあたっての不安	全く感じなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ほとんど感じなかった	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	3 (5.5)
	やや感じた	4 (7.3)	18 (32.7)	1 (1.8)	23 (41.8)
	非常に感じた	5 (17.2)	23 (41.8)	1 (1.8)	29 (52.7)
計		10 (18.2)	42 (76.4)	3 (5.4)	55 (100)

じた」としながらも教科の見直しを「全くしなかった」者はわずかではあるが1.8%ずついた。

実習に出るにあたっての不安と実習先の把握との関係を表7に示した。全体で見ると、41.8%と多くの者は実習前に「非常に不安を感じた」として実習先の把握を「半分ぐらいした」と答えた。34.5%の者は「やや感じた」として「半分ぐらいした」と答えた。3.6%とわずかではあるが、「非常に不安を感じた」としながらも実習先の把握を「全くしなかった」と答えた。

実習に出るにあたっての不安と栄養士の業務内容

の把握との関係を表8に示した。全体で見ると、41.8%の者は、実習前に「非常に不安を感じた」として栄養士の業務内容の把握を「半分ぐらいした」と答え、同様に、30.9%の者は「やや感じた」として栄養士の業務内容の把握を「半分ぐらいした」と答えた。9.1%の者は「非常に感じた」、5.5%は「やや感じた」としながらも栄養士の業務内容の把握を「全くしなかった」と答えた。

報告会の有効性と栄養士への就職希望との関係を表9に示した。全体で見ると、20.0%の者は実習後の報告会が「やや役に立った」として「栄養士とし

表7 実習に出るにあたっての不安と実習先の把握との関係 n (%)

		実 習 先 の 把 握			計
		十分した	半分ぐらいはした	全くしなかった	
実習に出るにあたっての不安	全く感じなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ほとんど感じなかった	2 (3.6)	1 (1.8)	0 (0)	3 (5.5)
	やや感じた	4 (7.3)	19 (34.5)	0 (0)	23 (41.8)
	非常に感じた	4 (7.3)	23 (41.8)	2 (3.6)	29 (52.7)
	計	10 (18.2)	43 (78.2)	2 (3.6)	55 (100)

表8 実習に出るにあたっての不安と栄養士の業務内容の把握との関係 n (%)

		栄養士の業務内容の把握			計
		十分した	半分ぐらいはした	全くしなかった	
実習に出るにあたっての不安	全く感じなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ほとんど感じなかった	0 (0)	3 (5.5)	0 (0)	3 (5.5)
	やや感じた	3 (5.5)	17 (30.9)	3 (5.5)	23 (41.8)
	非常に感じた	1 (1.8)	23 (41.8)	5 (9.1)	29 (52.7)
	計	4 (7.3)	43 (78.2)	8 (14.5)	55 (100)

表9 報告会の有効性と実習後の栄養士への就職希望との関係 n (%)

		実習後の栄養士への就職希望				計
		栄養士として将来就職したい気持ちが強くなった	栄養士として就職したい気持ちは変わらない	栄養士として将来就職しなくなった	栄養士として自分に向いていないと感じた	
報告会の有効性	非常に役に立った	4 (7.3)	3 (5.5)	1 (1.8)	2 (3.6)	10 (18.2)
	やや役に立った	1 (1.8)	11 (20.0)	1 (1.8)	5 (9.1)	18 (32.7)
	普通	5 (9.1)	5 (9.1)	4 (7.3)	9 (16.4)	23 (41.8)
	やや役に立たなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (7.3)	4 (7.3)
	全く役に立たなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	10 (18.2)	19 (34.5)	6 (10.9)	20 (36.4)	55 (100)

て就職したい気持は変わらない」と答えた。しかし、16.4%の者は「普通」としながら「栄養士として自分は向いていないと感じた」と答えた。「やや役に立たなかった」とした7.3%の者全員が「栄養士として自分は向いていないと感じた」と答えた。

考 察

新カリキュラムが平成14年から施行され、短期大学における校外実習は1単位以上と規定され、「給食の運営」として実施するようになり、管理栄養士の臨地実習とは住み分けがなされた。本学では、学生により多くの栄養士業務にふれさせ、知識を吸収させたいとの思いから、また快く実習を引き受けていただける施設があることから、実習を従来から2単位として実施してきている。実習先の希望は鳥取県内の施設として限定し、4月に学生の希望を取り、実習先と連絡調整しながら5月末までにはほぼ日程が決定し、その後学生に実習先を公表している。実施要領¹²⁾によれば、教育効果があがるように学内において事前および事後教育を行う体制を整えることとある。しかし、本学では、実習前のオリエンテーションは正規の時間割には組み込まれていないため、給食管理実習Ⅱの時間を当てて、7月初旬の1日を使用して行っている。事前オリエンテーションでは各実習先施設の概要、実習時の言葉遣い、礼儀・作法、服装、持ち物など細かい所まで指導している。また実習前に関連する教科の見直しをして実習に臨むように指導している。アンケート結果から実習に出る前は94.5%とほとんどの者が実習に対して不安を抱えていることがわかった。その不安内容としては人との交流が72.7%、調理技術面が65.5%であった。学生の家庭でも核家族が多く、高齢者あるいは子供と接する機会が少なく、どう対応したらいいのか不安を抱えている学生が多い。今後の課題として異世代と交流し、コミュニケーションする機会を設定する必要があると考えられる。教科の見直しは94.6%とほとんどの者が十分ではないが

「半分ぐらい」はしたと答えた。しかし、わずかではあるが5.5%の者が指導しているにもかかわらず、何の準備もせずに実習に臨んでいることがわかった。見直した教科名は不安項目で最も高かった調理技術面を補うために「給食管理」、「調理学」であった。しかし、実習後にもっと勉強しておけばよかった科目名として「調理学」、「栄養指導論」、「臨床栄養学」であった。栄養指導の媒体作り等で勉強不足を感じたものと思われる。事前のオリエンテーションは、69.1%が「役だった」と答え、「普通」を合わせると全員「役だった」であった。事後報告会は50.9%が「役だった」と答え、「普通」も合わせると92.7%が「役だった」と答えており、栄養士として就職先を検討する資料として役立ったものと考え

る。今回の調査で、実習後、36.4%の者が「栄養士として自分は向いていないと感じた」とし、10.9%が「栄養士として将来就職しなくなかった」と答えた。校外実習を終えた後で、実習先の栄養士さんに刺激され栄養士への就職をさらに強く希望する者と、自信をなくし栄養士への夢を断念する者に分かれる。また学生の中には単位取得のみを希望し、栄養士への就職を考えていない者もいる。今回の調査用紙にはその項目がなかったため上記の項目の一つを選択したものと考えられる。栄養士を養成する立場として、栄養士への夢を抱いて入学してきた学生の夢をかなえられるよう、実習先の担当者と緊密に連絡をとりながら、今後実習内容を充実させ、意欲を掻き立てるような実習としていきたい。

ま と め

学外実習に出るにあたっての心構え、事前の予習の必要性などの事前のオリエンテーションと事後の報告会の有効性と学生の取り組みの実態を知り、今後の指導の一助とするためにアンケート調査を行った。その結果、実習に出るに当たり、不安をほとんどの学生が感じていた。その不安内容は調理技術

面、実習先の職員との交流、栄養指導面、入所者との交流の順に多かった。事前のオリエンテーションは大部分が「役に立った」と答え、「普通」は30.9%であった。事後の報告会は半数が「役に立った」と答え、「普通」は41.8%であった。教科の見直し、実習施設の把握、その施設の栄養士の業務内容の把握は大部分の学生が「半分ぐらい」して実習に臨んでいた。しかし、数名の学生は全く予習も施設の把握、栄養士の業務内容も理解しないまま臨んでいた。職員や入所者との交流が実習に出る前の不安内容としてあがっていたことから、今後、異世代間とのコミュニケーションが図れるような機会の設定が必要と考えられる。また、教育効果があがるように事前・事後教育が行えるように正規の時間割に組み入れることも必要と考えられる。実習後の栄養士への就職希望は52.7%であり、栄養士は自分には向いていないと感じた者は34.5%であった。単位取得希望のみの学生もいることは事実であるが、実習後栄

養士への道へ進む者もいることから、事前準備をして臨ませるよう指導していきたい。

謝 辞

この授業は食物栄養専攻の諸先生方のご協力を得て行われたものであり、この稿を終えるにあたり感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 全国栄養士養成施設協会編「臨地・校外実習の実際—改正栄養士法の施行にあたって—」(社)日本栄養士会(社)団法人日本栄養士会(2002)
- 2) 全国病院栄養士協議会「病院栄養士必携 病栄協のしおり 医療施設における実習受け入れマニュアル—臨地・校外実習の実際 別冊」社団法人日本栄養士会(2003)